

在宅医療相談室だより



発行：瀬谷区医師会在宅医療相談室 〒246-0037 横浜市瀬谷区橋戸1-36-1 ☎ 045-520-3122

ごあいさつ

平成27年1月に開設した、瀬谷区在宅医療相談室も、間もなく丸2年が過ぎようとしています。手探りで始めた在宅医療相談室ですが、少しずつ地域のケアマネジャーさんや、各病院の連携室の方、医師会・歯科医師会の先生方にご相談を頂けるようになってまいりました。在宅医療相談室の仕事内容としては、日々の相談業務のほかに、多職種連携会議や事例検討会、区民向け講習会や医師向け勉強会などがあります。瀬谷区在宅医療相談室では、瀬谷区高齢障害支援課や、ケアマネット、訪問看護連絡会、地域包括支援センターなどと連携しながら、様々な情報を地域に発信させていただいております。

それらの活動報告も兼ねまして、定期的な「在宅相談室だより」を発行させていただきます。今後も、相談室を皆様に周知、活用して頂けたら幸いです。

平成28年度活動報告

行政との連携としては、区レベルケア会議事務局として活動。そのほか、包括支援センター主催の個別ケア会議にも積極的に参加しています。また、9月13日には、下瀬谷ケアプラザのオープン講座「住み慣れた自宅で療養生活」の地域向け講師をさせて頂きました。



9月26日(月)

多職種連携会議 「瀬谷区内医師との情報交換会」

瀬谷区主任ケアマネジャー部会、瀬谷ケアマネットとの共催で、瀬谷区内の医師・歯科医師との情報交換会を行いました。一部は、せやグリニックの川口千佳子先生による「パーキンソン病・パーキンソン症候群の違い」のミニ講座を行い、二部は場所を移動して、食事をしながらの交流会を行いました。

ケアマネ38名と医師7名・歯科医師9名他多職種間で食事をしながら、楽しく過ごし、顔の見える関係づくりとなりました。

9月27日(火)連続講座「持ち上げない看護、抱えない介護 講義編」

～ノーリフトから考えるケアの質～

10月11日(火)連続講座「持ち上げない看護、抱えない介護 実技編」

～ノーリフトから考えるケアの質～

今回、地域のスキルアップ研修として、瀬谷区高齢障害支援課との共催で神戸から日本ノーリフト協会の保田淳子氏を講師としてお迎えしました。ケアを提供する人の体を守り、インシデントを防止するとともに、ケアを受ける人の拘縮や褥瘡を予防し、QOLを大きく改善できるスキルを学ぶことが出来ました。オーストラリアで発祥の「ノーリフトポリシー」の理念から研究された、新しいスキルに「目から鱗」と感嘆の声が上がりました。



今後の予定

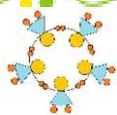
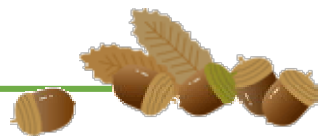
11月24日(木)『認知症を支える多職種連携』 せやまるカフェ

* 瀬谷区高齢障害支援課・瀬谷区ケアマネット共催で行われます。

12月9日(金)『瀬谷区 医療・福祉セミナー』

* 瀬谷区訪問看護連絡会・瀬谷区ケアマネット・瀬谷区高齢障害支援課・聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院総合相談部ホームケアとの共催。

(詳しい内容や申し込み方法は、後日広報いたします。)



あく手の会 発足 Akushu

平成28年7月26日

瀬谷区在住の介護をされている方々を対象に、介護者同士の交流や学びの場を提供し、地域で支える街づくりを目指して「あく手の会」を発足いたしました。実施主体は発起人である介護相談センターひとはなと、瀬谷区医師会在宅医療相談室であり、医師会や各包括支援センター、区内の介護事業所と連携し、点から線のシステム作りを目指してまいります。将来的には、一緒に活動できる同志を増やしつつ、医療と介護の両面から在宅介護の負担を軽減し、地域での家族支援の活性化のために活動範囲を広げていきます。29年3月の「第一回介護者の集い」を目指し、活動を開始いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

瀬谷区在宅医療相談室では、在宅療養にかかわるご相談、往診医や医療資源のご案内、介護・医療サービスへの連携など、出来る限りのご相談を受けるとともに、地域との連携強化に努めます。また、入院先に困っている、受診先がわからない、などというご相談もお受けしています。

瀬谷区
在宅医療相談室
お問い合わせ先



045-520-3122

介護職向け

けあのはつぽ

今回は＜保湿＞のお話し

これから、冬場に向けて、お年寄りやアトピーっちゃんたちが、「かゆい、かゆい」と体を掻きだします。かくいう私も、とってもかゆくなる一人です。これは、乾燥によるものが多いようです。入浴介助の時に肌着を脱がせようとする、と、ぱぁっと白い粉が舞い散るのを、よく目撃します。これは乾燥によるものですから、風呂上りまだ体が湿っているうちに、しっかりと保湿をしてあげてくださいね。特に湿疹などのトラブルがなければ、市販の保湿力の高いタイプの保湿クリームをたっぷり塗ってください。お肌に湿疹などがあったら、まずは皮膚科を受診してください。

ご高齢の方は、特に皮膚が薄く傷つきやすくなっています。

そんな時に腕を掴んだだけで赤いあざが出来たり、ちょっとその腕を引っ張ったら、皮膚がずるっと剥けちゃった、なんてことだってあります。「スキンテア」という状態ですが、これは保湿やちょっとした気遣いで回避できます。



秋を乗り越えて、朝夕はコートが欲しくなってきましたね。ばちばちインフルエンザの患者さんが出ているそうです。皆様、お体に十分気を付けて、日々のお仕事頑張ってください。瀬谷の夕暮れをお届けします。

瀬谷区在宅医療相談室 編集 大嶽 朋子